

舌象診断支援システム

企業 / 日本エレクトロニクスサービス（株）
研究者 / 荻田善一（富山医科薬科大学名誉教授）

西洋医学では、どんな病気かということを経験の最終目的として求めているのに対して、中国医学ではどうすれば治療できる症状であるかを知るために診断する。また中国医学の場合、診断は四診法（望診・聞診・問診・切診）によって行われ、特に望診における望舌（舌の様子から体質を診断すること）は体の盛衰を如実に現すとされる。

本システムは、高精細デジタルカメラにて撮影した被験者の舌画像をパソコンのディスプレイ上にて典型症例の舌画像データベースと見比べ、色調や質感の類似したものを視覚的に選択することを支援するものである。

併せて、被験者に対しパソコンでのタッチモニタによるインタラクティブな問診を行い、望舌による診断の補助とし、より正確な体質判定を行う。また、漢方処方箋データベースとの連動により、体質改善のための漢方処方を診断結果として表示する。



ディスプレイ例